

7月25日(火)発行



ほぼ

日刊サマ-ミュージカ

Hobo Nikkan Summer Muza



OEK、サマ-ミュージカ初登場！ 世界初演ツアーで喝采



▲終演後の記念撮影
(左から) ルドヴィート・カンタ (チェロ)、井上道義 (指揮)、ティエリー・エスケシュ (オルガン)

7/23
オーケストラ・アンサンブル金沢
お客様の声から♪

演奏も良かったが、井上さんのトリビュートの演奏も良かった。オルガンとアンサンブルの共演も良かった。(40代・男性) / 小人数のオーケストラとは思えないほどの演奏に、息をつく暇もありませんでした。また機会がありましたら、出かけてみたいと思いました。(60代女性) / 現代音楽はあまり聴かないが、生で聴くと面白い!! 「未完成」とても良かった。金沢また聴きたくなった。(60代・男性) / 子供にチケットをプレゼントしてもらいました。はじめてのオーケストラの公演です。楽しませていただきました。ありがとうございます。(50代・女性) / こんなにたっぴりとエスケシュさんのオルガンをオーケストラと共に聴けたなんて幸せ。ピアノ協奏曲とても美しい絵でした。他の曲もみな素敵でした。(40代・女性) / 即興、メインのオルガンコンチェルトとも、大変良かった。FSMのプログラムはどうしても名曲全集っぽくなるので、こういうプログラムはありがたい。毎年来てほしい。(50代・男性)

7月23日(日) オーケストラ・アンサンブル金沢

フェスタ2日目は、特別参加のオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)が音楽監督の井上道義と登場した。現代を代表するフランスの作曲家ティエリー・エスケシュに委嘱したオルガン協奏曲第3番「時の4つの顔」がメインのプログラム。エスケシュの独奏により金沢で世界初演した後、那須野が原、松本と回ったツアーの最終日である。

曲は音楽史の起源から始まり、各時代の要素が現代に映し出されながら進み、最後はまた起源へ回帰していく。作品の主眼がオルガンを独奏楽器ではなく、オーケストラの一部と

して扱う面白さにあったため、音だけでは鳴っているのがオルガンなのかオーケストラなのか区別がつかず、目で探してしまう箇所がたくさんあった。私は4公演とも聴いたが、事前の予想以上にオルガンやホールの違いは顕著で楽しめた。川崎公演の特徴は解像度の高いホールの音響。情報量の多い作品が精緻に立体化されるので、オルガンという楽器を使ったからこそその音響空間が実現。井上とOEKは自発性を発揮した演奏でエスケシュの世界を表出することに成功した。

もう一つの公演の目玉は、

“OEKの顔”首席チェリストのルドヴィート・カンタの独奏によるサン＝サーンスのチェロ協奏曲第1番。声高な主張はせずシンプルで味わい深いカンタのソロにしっかり寄り添うオーケストラ。シューベルトの「未完成」と合わせてOEKの持ち味にあふれた公演となった。

また、公演冒頭では井上らしく「未完成」と「ゴジラ」のテーマを掛け合わせたお題を出し、エスケシュが見事な即興演奏を披露して会場を沸かせた。

(潮博恵 音楽ジャーナリスト)

本日 7/25 (火)

コンサート前のお楽しみ♪

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

リハ 11:30~最長13:30
公開リハーサル (自由席)

▶▶NEXT!!
フェスタサマ-ミュージカ

東京都交響楽団
《ヤクブ・フルシャの「我が祖国」》

7/26(水) 19:00 開演 (15:00 開場)
ミュージカ川崎シンフォニーホール

指揮/
ヤクブ・フルシャ



スメタナ：
連作交響詩「我が祖国」(全曲)

リハ 15:30~
公開リハーサル (自由席)

当日券あり

【7/24 時点情報】
残席僅少のため、当日券の詳細は、下記チケットセンターまでお問合せください。
※S席：売切れ

Tel. 044-520-0200
(10-18時)

